

- 開会
- 校長あいさつ
- 学校運営協議会について
- 委員自己紹介
- 会長、副会長の了承
- 会長あいさつ
- 事務局等自己紹介
- 学校紹介ビデオ視聴

○協議

①「本校の学校経営計画」について説明

(校長)

生徒にとって、先生にとって、地域にとっての学校のあるべき姿を考え計画した。生徒の規則正しい生活が就労につながると考えている、言葉づかい、身だしなみ等にも重点をおいている。生徒たちが先生ともっと話をしたいという意見があったので、カウンセリングタイムなどを設定。進路部でも気楽に進路相談ができる機会を設けている。新転任の先生方にも、企業での研修を予定している。

②本校の「進路指導」について説明

(事務局)

本人の意欲を引き出し、主体的に選択、決定できるよう支援している。実習は、通年で繰り返し実施している。通年で実施するのは本校の特徴でもある。3期生の就労率は、本校開校以来初めて80%を超えた。ひとりがすでに離職したが、別の職場で働いている。

質問・意見

(会長)

- ・以前の支援学校では、卒業後、軽作業の仕事につく生徒が多かったが、現在はサービス業につく生徒が増えていることを念頭に置いた教育課程になっているのと感じた。
- ・教育課程と定着率の関係など、評価指針となるような事柄について数値化し、エビデンスを取って行く事も検討が必要。
- ・教員にも「キャリアステージ」の考え方がある。教員の伸ばしていくべき力として、「人間性」、「社会性」、「専門性」があるが、とりかいで教員が企業体験を実施していることは、「専門性」だけでなく「人間性」「社会性」をつけるために役立っていると思われる。
- ・防災に関して、津波が起こったときの想定などはどうなっているか聞きたい。

(校長)

防災に関しては、摂津支援学校と共同で考えており、摂津市の津波時の避難場所にもなっている。

(委員)

昔は淀川の水面は堤防より高くなる事があったが、今は堤防が高くなった。また、川底も掘られ、川自体も深くなっているので、以前よりも安全になったと考えられる。

(会長)

平成30年度の「学校経営計画」について承認

### ③教科書選定について説明、選定教科書の確認

(教務部長)

選定までの流れについての説明

(委員)

実際の現場では、何に困っていて、どうなると良いと考えているのか？

(事務局)

新入学生の状況などがつかめていないうちに教科書を選ばなければならないこと、良いと思って選んだ教科書が絶版になる場合があること等に困っている。

### ④意見交換

(委員)

何度も繰り返し実習に行くということだが、同じようなところに行くのか、違う業種、職種のところに行くのか？

(事務局)

どちらの場合もある。

(委員)

生徒は自分から実習に行くことを希望しているか？

(事務局)

進路指導部としては「待つ」姿勢。担任が「背中をおす」という役割分担をすることも多い。

(委員)

離職した生徒はどうなっているか？

(事務局)

新しい仕事が決まって仕事をしている。また、アフターフォローとしては、5,6月に進路部が進路先を訪問し、夏休みに旧担任が訪問している。その他、企業からの問い合わせなどがあれば随時フォローをしている。

(委員)

3年生の実習はどんな状況？

(事務局)

2年生の12月の懇談で希望職種を聞き取り。固まっていれば2年の1月から業種をしばって実習を進めていく。また、2年3月までに固まれば、春休み中に企業開拓をして3年当初から実習を進める。ジョブコーチのプロセスによる集中支援期の意味で、学校ができることとして、繰り返し実習に行かせている。

(委員)

2年生の我が子は実習に行って自分で進路を決め切れるのか少し心配である。先生に「ここは大丈夫だよ」と背中を押してもらえるとうれしい。

(委員)

とりかいは、実習時期や期間に柔軟性があるので良い。実習には来ても、心が成熟していない(働く気持ちがまだできていない)人もいる。企業側も柔軟に対応できるので、相談して欲しい。教員は何を困っているのか知りたい。実習はいくらでもどんな場合でもうけることができます。

○本日のまとめと終わりの挨拶